

# 乳幼児教育の質の向上ニュースレター

## 相愛こども園で公開保育を実施しました

相愛こども園において、公開保育をおこないました。相愛こども園では、こども達一人一人の思いに寄り添いながら、「おもしろそう」「やってみたい」という気持ちを大切に日々保育されています。今回の公開保育をきっかけとし、こどもの姿から遊びの環境を見直し、試行錯誤しながら室内外の環境づくりにも取り組んでこられました。

公開保育後のグループワークでは、「やってみたい」と様々な遊びに夢中になるこども達の姿が共有されました。参加者がそれぞれに自身の保育を振り返りながら話し合いが進められ、参加者・実践者ともに学びを深める機会となりました。

講師には、神戸大学大学院教授 北野 幸子先生をお迎えし、一人一人のこどもの個性と向き合う保育実践の大切さなどについてお話いただきました。私たち保育者が今一度、自身の保育を見つめ直し、これからの保育実践に向けて、あたたかく、心強いご助言をいただきました。

### 参加園・校

朝日幼稚園	東山こども園
朝来幼稚園	ルンビニこども園
岡田こども園	うみべのもりこども園
シオン幼稚園	舞鶴こども園
昭光保育園	八雲保育園
平こども園	中保育所
タンポポこども園	志楽幼稚園
なかすじこども園	明倫小学校

## 年齢ごとのこどもの姿とカンファレンスでの北野先生のコメントをご紹介します

相愛こども園では・・・

こども達が夢中になって遊べる環境とは...空間や素材はどうだろうか...職員間で話し合いを重ね、こどもの姿を丁寧に見ていながら、発達や興味関心に応じて環境を再構成してこられました。公開保育の様子からは、安心できる居場所で、大好きな先生や友達と一緒に、思う存分楽しむ姿が、園内外のあちらこちらで見られました。そのようなこども達の姿とともに北野先生からのコメントをお伝えします。

### 0歳児

月齢差の大きい0歳児ですが、ハイハイの子、つかまり立ちの子などそれぞれが楽しめるよう、発達に合わせた環境が整えられています。手作り玩具は、感触や素材などが工夫され、見たり、触れたり、音を聞いたりして楽しむ姿がありました。大好きな保育者のもと、安心して過ごす様子が見られました。



～北野先生コメントより～

○知らない大人を見て、「泣きそうかな？」と思った時に抱っこしていた保育者がその子の顔の向きを安心できる側にゆっくりと変えたことで泣かなかった。この姿に、こどもが保育者に心地よさを感じていることや、大事にされていることがよく分かった。



これからのチャレンジ ～北野先生コメントより～

○滑り台では、坂を登って頂上からまわりを見たり、あえて立ったまま斜面を下る姿があった。坂の勾配や、坂を下っている時につんのめりそう、転びそうという感覚を全身で感じていた。そのような姿をとらえ、保育者が、擬音語や擬態語なども含めた言葉を添えていくとよいだろう。

○斜面で勾配を感じたり、穴があるから入れなくなったり、振って音がするからそれを聴いてみたりと、たくさんの探究の姿があり、体感しながら考えていた。保育者はその姿を認めたり、共感したりこどもの気づきや発見、考えたり、試行錯誤している姿を見つけることが楽しいという感覚でこどもと接してほしい。そうすることで、何を味わっているのか、何に気付いているのか、何にチャレンジしたいと思っているのかに気付くことができるのではないかな。

### 1歳児

保育室には、一人用のボールプールがありこどもたちの「安心できる場所」となっていたり、「ポットン落とし」は、長さや硬さなどの異なる様々な素材があり、くり返し試したり、考えたりできるよう工夫されていました。園庭では、落ち葉のカサカサした感触を楽しんだり、保育者や友達と身体を動かして楽しむ姿がありました。



～北野先生コメントより～

○保育者がこどもの目線の先を見ようとしている姿がたくさんあった。こどものことを知りたいという思いが、こどもに十分伝わっており関係性のいい空間であった。保育者の共感がこどもに届いており、こどもの表情やしぐさから信頼関係が築かれていることが伝わってきた。

○虫を見つけた子が『見つけたよ』といった表情で私（北野先生）の顔を見て微笑んでいた。日頃から、こどもの発見や楽しさに共感し、笑顔に回答するといったかわわりを保育者がなさっていることが予測できた。

○こどもの幸せな表情や満足しているであろう身体の表現がたくさんあった。ボールを蹴った後に、腰に手を当ててポーズをとることをくり返す男児の姿からも、認められて、受容されている様子が見て取れた。

### これからのチャレンジ ～北野先生コメントより～(1歳児つづき)

- 1歳児の探求する姿は興味深い。世界の不思議を全身で感じたり楽しんだりしている。保育者は、何に気づき、どのように感じ、考えているのか、その探究の内実の理解を深めてほしい。
- 形や色、手触りについて、子どもが感じていることに共感するだけでなく、保育者が言語化し、認めたり、問いかけたりする言葉を添えるのもよいと思われる。
- 保育者とものを介して遊んだり、関係性を構築しようとする姿があった。他児に「みてみて」と言葉をかける姿もみられた。保育者は、他児に話しかけようとする子どもを励まし、共感し、時に確認したり、言語化を支援することが望まれる。子どもが考えていることを一緒に楽しんだり、それを認めたり、深めたりしてほしい。



1、2歳児の保育室は増築されたことで、空間のゆとりも生まれました。このメリットをいかしながら生活や遊びの場が整えられていました。子どもの興味にもとづいたたくさんの遊びがあり、子どもが「自分で選ぶ」「自分で選ぶ」環境となっていました。

### 2歳児



保育室は、ままごとや病院ごっこ、電車ごっこ、5歳児さんにあこがれて始まった太鼓ごっこなど、子どもたちの好きな遊びがたくさんつまった空間でした。「注射しま～す」とお医者さんになって診察したり、ごちそうを作って「どうぞ～」と友達にふるまったりと、保育者や友達と一緒にやり取りしながら楽しむ姿が見られました。



### ～北野先生コメントより～

- 子ども達の姿を洞察して、思いをくみ取ろうとされており、それに基づき、環境を再構成されていることがよく分かった。豊かな環境があったからこそ、子ども達はなりきってごっこ遊びを楽しんでいたのだと感じた。
- 病院ごっこのコーナーでは、子ども達だけでごっこ遊びが展開していた。注射器や聴診器、薬などがあったが、遊びやすくするために、子ども自身が遊具を並び替えて整えていた。2歳児のごっこ遊びで、自分達で遊具を整える姿はあまり見られないが、保育者が、子どものために何をしたらもっと楽しくなるかを考えて準備されていたことから、そのような姿が見られたのだろう。

### これからのチャレンジ ～北野先生コメントより～

- 子どもだけでもいろいろと遊びが発展しそうなので、次は子ども同士の関係性に着目してほしい。保育者が一緒に遊びながら、子どもの姿を見て遊びの場から離れても、子ども同士の相互作用が展開するような「離れ際の援助」(子ども同士で遊ぶ、役割を担う、どこまで子どもに任せるかなど…)を楽しみながら工夫してほしい。

幼児クラスでは、階段下のスペースを活用し、ライブごっこをしたり、廊下からも買い物ができるようにお店のレイアウトを工夫したりと、異年齢で関わりながら楽しめるような環境となっていました。

### 3歳児



保育室には、おうちごっこ、お店屋さんごっこ、車遊びなど、子どもたちの興味関心から始まった遊びのコーナーが工夫されていました。彩りを考えながら丁寧にお弁当を作ったり、赤ちゃんに語りかけながらミルクを飲ませたりする姿など、なりきって遊ぶ姿があらこちらで見られました。公開保育の日にはお寿司屋さんだったお店は、子どもたちの声を聴いて、その時々でアイス屋さんやケーキ屋さんにも変身します。「〇〇もいる」「〇〇作りたい」などと言いながらケーキ屋やお寿司など、保育者と一緒に遊びに必要なものを作ることを楽しむ姿が見られました。

### ～北野先生コメントより～

- 回転ずしごっこや魅力的なお弁当、手作りのキッチン素材など、楽しくなるような工夫がたくさんあった。
- 多様な子どもがいる中で、トラブルや怪我に対する配慮も考えながら、丁寧に保育されていることが見て取れた。

### これからのチャレンジ ～北野先生コメントより～

- 次に工夫するのであれば、でき上がっているものだけでなく、何にでも加工可能な素材(毛糸・フェルト・色紙など)を置いてみてはどうだろうか。加工可能な低構造な素材が、子どもの発想を促すと考える。子どもの発想が引き出されるような素材を吟味し、子ども達に任せることで、何を作るのかを保育者が楽しみにするとよい。
- 遊びの中で保育者の意図と違うことや、予想外のことが出てくることを歓迎したり、楽しんだりすることも大切にしたいと考える。
- 保育の中で安心・安全は大前提であるが、トラブルから学ぶ子ども達の姿もあると考える。自由度や葛藤が子どもを育てると捉え「次へのチャレンジ」としてほしい。



## 4歳児

「いらっしやいませー」という声が響く保育室では、こどもたちのこだわりが詰まった「お祭りごっこ」が開催されていました。くじ引きや輪投げなどの遊びがあり「お店屋さん」と「お客さん」と自分達で役割を決めながらやり取りを楽しんでいました。「先生だけが特別に何回もくじを引ける」といったやりとりから、こども達が保育者のことを大好きなことがうかがえました。



～北野先生コメントより～

○保育者が一人一人のこどもの姿を洞察し、大事にして、こどもを知ろうと努めておられる様子が伺えた。素材を吟味し、ストーリー性のある楽しい遊びが展開されていた。

○好きな曲や好きな動き、好きな遊びが歓迎されている様子からも保育者が「一人一人の好きなことを大切にしたい」と願う気持ちが、こども達に伝わっていると感じた。



ふり返りの場面では… ～北野先生コメントより～

○ふり返りの場面では、友達の顔を見ながら丁寧に話をしようしたり、質問を聞いたり、質問した子に伝わるようにしっかり目を見ながら、答えたりしようとするこども達の姿が見られた。

○保育者は「他に質問は?」「自分で考えて、どうだった?」などと、丁寧に思考を促し、こどもが考える姿を大事にしていた。言葉による伝え合いを真面目にしようとしていたことが援助の姿として見られた。

これからのチャレンジ ～北野先生コメントより～

○発言しているAちゃん、Bちゃんへの関わりは、一人一人の考えを掘り起こそうとする素晴らしい援助だった。次へのチャレンジとして、直接発話しているこども以外のこどもたちが、そのやり取りを「自分事」として捉える姿や、「おもしろそう!」「次は自分もやってみよう!」という意欲が育まれる様子につながるかどうかをみていって欲しいと考える。

○さらに、「今、直接話しているこども以外のこども達は、この様子をどう見ているのか?」「待っている間に何を感じているのか?」ということにも意識していくとよいだろう。



## 5歳児

保育室は、ケーキ屋さんや警察署、ネイルコーナーなど、こどもたちのアイデアがあふれ出す楽しい空間となっていました。色合いにもこだわったネイルや、チョコレートアイスの中の見えない中身にまで「クリームを入れる」という工夫など、一つ一つにこども達のこだわりが見られました。



～北野先生コメントより～

○普段から自分の表現を認められていることで自信をもって「見て、見て!」と見せに来る姿があった。自分なりに納得いくまで遊び込む姿が見て取れた。

○壁面の製作などは、保育者の大人の手(加工)が入っておらず、全てこどもが作っている。ケーキやネイルなども一つ一つが違って、見栄えを整えるための修正がないからこそ、こども一人一人の個性や「こうしたい」という思いがうかがえた。

○遊びの場所や向きを柔軟に変え、こども達が没頭できる「コーナー」が構成されていた。こどもの様子を観察し、試行錯誤しながら環境を整えていることがうかがえた。



ふり返りの場面では… ～北野先生コメントより～

○こども達から「かわいい」「かっこいい」「すてき」といった他者を認める言葉が自然に出てきており、これはとても大事な姿だと考える。自分を肯定し、相手も尊重する心をどう育てていくかが大事であり「認め・認められる」経験の積み重ねが、こども達の自負(誇り)と自尊感情を育む鍵となるだろう。

これからのチャレンジ ～北野先生コメントより～

○次へのチャレンジとして、「素敵だね」という感想から一歩進み、「どこが」「どんなふうに」素敵だと思ったのかを具体的に考えてみてほしい。

○また、保育者が感じたことを、「ここは〇〇を工夫しているね」「この部分にこだわっているよね」などと、言語化し、認める支援があるとさらによいと思われる。

○保育者がこどものことを「もっと知りたい」「教えてほしい」と思っていることは、こども達に伝わっている。それがモデルとなり、他者に関心を持ち「人と関わることの楽しさ」が育まれていくと考える。これこそが保育の醍醐味だと考える。



## ライブコーナー



ライブコーナーでは、自分の好きな歌を歌ったり、楽器の演奏をしたりと、異年齢で関われる素敵なスペースとなっていました。

## グループワークより

3歳児のトラブルについて、グループワークの中で話題となった内容をご紹介します！

### 公開保育の様子では…

・先生がこどもの様子を見ながら遊びに入ったり、言葉をかけたり、トラブルの仲立ちをしていました。「どうしたらいいかな」など問いかけ、こどもが考えられるような言葉がけや関わりが見られました。

### 参加者から

- ・3歳児って遊びのなかでトラブルやいざこざが多い…どうしたらいいでしょう？
- ・まずは、「〇〇したい！」というこどもの思いを受け止めることが大事ですね！
- ・玩具や道具の数、遊びの場にも工夫がいるのではないのでしょうか？
- ・保育者が仲立ちとなり、お互いの思いを伝えることも大切ですね。
- ・保育者が決めてしまうのではなく、「〇〇するのはどうかな？」と提案することを大事にしたいですね。



グループワークの中で先生方が話し合ってくくださったように、こどもは自分の思いが通らない経験を通して、「自分と違う考えをもつ人がいる」ということを知ります。これは、思いやりや共感性の基礎となる「他者の視点」を獲得するための第一歩です。

保育者に気持ちを代弁してもらい、受け止めてもらう経験を繰り返すことで、自分の感情に折り合いをつける力も育ってきます。

### 北野先生のお話にもあったように…

トラブルやいざこざは必ずしも悪いことばかりではなく、こどもの成長に欠かせない要素が含まれていると捉えてこども達を見ていきたいですね！

## カンファレンスより

～誕生からどのような育ちが積み上がってきたかを見るこども観・教育観を大切に～北野先生コメントより

○今回の公開保育を通して、先生方の環境構成の工夫と、そこに至るまでの試行錯誤が伝わってきた。「〇〇なるように△△する」といった目的があり、そこへの援助の工夫が指導案に丁寧に書かれていた。

○インクルーシブな保育がなかなか進まないと言われる昨今だが、相愛こども園では一人一人の個性と向き合う保育が実践されている。物的支援が整い、こども達に安心できる居場所がある。そこにはこども達の『幸せな表現』が溢れていた。どのクラスもこどもの尊厳が守られていた。

○「国立教育政策研究所の幼児教育における保育実践の質評価スケール案」では、「保育者が（中略）歌や言葉遊びをしたりすることを支えている」という項目がある。今日もいろいろなところで、鼻歌を歌いながら遊んでいるこどもの姿があり、普段からそのような保育者の支えがあるのだろうと感じた。さらに、「教材やおもちゃ等で子供が保育者の意図とは異なる使い方をしても受け入れている」などの項目もある。保育者の予測と違うことが起こった時に「おもしろい！」と思える専門家であってほしい。

○小学校1年生を起点として見てしまうと、5歳児は「まだ〇〇できない」というような遅れや不足を探すような見方になってしまう可能性があるだろう。誕生からどのようなこどもの育ちが積み上がってきているのか、という見方ができると、その子の育ちの積み重ねという観点でこどもを見る教育観、育ちの観点、こども観につながると思う。



○指導案やドキュメンテーションは書いた後に見直すと次の課題が見えてくる。何ができるようにすることは悪いことではないが、「できた・できていない」の評価ではなく、「何に関心を持ったか」「どのように取り組んだか」等のプロセスを見ることが大切だと考える。

○一番の評価者はこどもである。保育の探究に終わりではなく、目指すべき高みに天井もないと考える。無理のないようにしながら、こどもを主語に保育を考えていきたい。

○こどもが遊び込めるように環境を再構成し続け、常にチャレンジしてほしい。保育者自身の楽しみややりがいが、こどもの幸せにつながるのではないかな。

## 参加者からのアンケートより

- ・どのクラスも環境が工夫されており、こどもが選んで遊びやすく、やってみたいと思えるようになっていました。保育者は、介入しすぎずよいタイミングで言葉をかけて関わっておられる姿があり、学びになった。
- ・先生方が、こども一人一人の意思や思いを大切にされた関わりをされているのが伝わってきた。
- ・グループワークでは、参加者それぞれの視点で話ができて、気づきも深まった。実践された園の先生とも話ができたり、思いや悩みなどを、保育者同士ではなしができてよかった。
- ・「何をしたら楽しめるだろうか」「何をしたらこども達は夢中になれるだろうか」という考えは学校で学習する場面でも言える。小学校でもこども達が選択しながら学習する方法を設定したり、やってみたいという気持ちを尊重した単元構想を考えたりして、園での学びを小学校でもつなげていけるようにしたいと感じた。

